

集会のまとめと閉会あいさつ

昨日の原発事故被災地の視察と本日の分科会、そして全体集会への参加たいへんご苦勞さまでした。本集会を閉会するにあたりまして、まとめのごあいさつを申し上げます。被災3県をはじめ全国各地からのべ188人の方に参加をいただきました。昨日の視察をはじめ集会成功にご尽力をいただきました福島といわきのみなさんに感謝を申し上げます。

まず、はじめに、政府・与党と維新の会は昨日、衆議院のTPP特別委員会での採決を強行しました。そして、週明けにも衆院本会議で可決し参議院に送ろうとしています。被災地の復興や国民生活、地域経済を破壊し、多国籍大企業の利益を最優先するTPPの採決強行に断固抗議するものです。参加者の総意として本集会名で抗議と廃案を要求する文書を政府・与党に突き付けることを提案します。文案は事務局にお任せいただきたいと思ひます。

さて、今回の全国交流集会は、福島の現状と課題をしっかりとつかんでいただこうと企画しました。参加者の皆さんの目と耳と足でつかんでいただきましたでしょうか。

東日本大震災、原発事故から5年余の歳月が過ぎましたが、被災者の生活と生業の再建はまだまだ道半ばです。本日の分科会では、「惨事便乗型復興」を乗り越えて被災者のくらしと生業の再建にむけたとりくみと課題が話し合われました。憲法をいかした被災者本位の復旧・復興は、被災者のみならず、私たち国民の課題であることをあらためて確認したいと思ひます。

原発事故から5年余が経過したもとの政府は、「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」の除染を行って2017年3月末までに避難指示を解除し、帰還を促進するとしています。この最大の問題は、放射線量年間20ミリシーベルト以下での被ばく生活を強要し、避難指示解除とあわせて自主避難者への住宅援助などの支援を断ち切り、そして、損害賠償を打ち切ろうとしていることです。まさに、ふくしま切り捨て政策です。私たちが目にした現実、原発事故の異質な被害であり、住みたいのに住めない実態です。

政府は、原発の再稼働と原発の輸出を進めるため、そして2020年のオリンピックにむけて原発事故の「収束」を演出するために、福島の現実や避難者を無視して強引な帰還政策を押しつけています。原発事故の加害者である東京電力と政府の責任放棄は断じて許されません。政府による福島切り捨てを許さず、原発政策を転換させるため、「止めよう！原発再稼働 かせよう！福島切り捨て政治 国と東京出力が責任を果たすことを求める請願署名」を全国で旺盛にとりくみ、国民の大きな世論で政府と東京電力を包囲しようではありませんか。

いま日本は、熊本や鳥取での大地震発生にみられるように地震の活動期にあります。また、集中豪雨による土砂災害や堤防決壊、洪水など、大規模な自然災害は全国どこでも起こり得る状況にあります。分科会では、この点について、災害救助法にもとづく避難所や被災者救援のあり方についても議論しました。そして、災害に対する法制度のあ

り方についても議論しました。各県・地域での防災の点検、検証活動などに生かしていくこととあわせて、防災専門省庁の設置を求める運動も提起したいと思います。

同時に、住宅再建にかかわっては、何としても生活再建支援金の500万円への引き上げが重要不可欠です。継続審議となっている野党共同の生活再建支援法改正法案を成立させるためにも、職場と地域から「被災者の住宅再建支援制度の抜本的拡充を求める請願署名」を軸に、市民と野党の共同をひろげ、500万円への引き上げと一部損壊への支援策を実現するために一緒に奮闘しようではありませんか。

こうした運動を全国的に展開するためにも、全国に災対連組織を確立することが必要であり、そのための努力を呼びかけるものです。福島原発事故や東日本大震災被災者の一日も早い生活と生業の再建、そして、地震や豪雨などすべての被災者の復旧・復興を実現するため、被災者に寄り添って引き続き全国でお互いがんばることを確認して、本集会のまとめと閉会のごあいさつといたします。

二日間、たいへんご苦勞様でした。ありがとうございました。

以 上

①企画別			
	視察	分科会・全体会	
全国	65	71	
岩手	22	22	
宮城	29	30	
福島	17	48	
合 計	133	171	

分科会	参加者数	※ 報告書より
第1	21	
第2	36	
第3	42	
第4	53	
合 計	152	

②都道府県別			
3県内訳	宿泊参加	日帰り参加	合 計
岩手	18	10	28
宮城	29	2	31
福島	19	33	52
小 計 ①	66	45	111

全国内訳	宿泊参加	日帰り参加	合 計
山形	1		1
栃木	2		2
茨城	8	1	9
埼玉	2	1	3
東京	29	5	34
神奈川	1		1
新潟	10		10
愛知	1		1
兵庫	7		7
島根	3		3
広島	1		1
高知	1		1
福岡	3		3
熊本	1		1
小 計 ②	70	7	77

合 計			188
-----	--	--	-----